



発行：公益財団法人国際労務管理財団（IPM）

東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビルディング7F

http://www.ipm.or.jp/ TEL：03-3354-4841(代) FAX：03-3354-4847

訪泰調査団の報告

TOPICS	ページ
訪泰調査団の報告	1
ベトナム大使館開催 意見交換会に参加しました	2
OTIT「令和4年度技能習制度 に関する調査」	
介護施設における取組① ～社会福祉法人邑元会様～	3
介護施設における取組② ～社会福祉法人悠揚会 特別養護老人ホーム はるばてお様～	
ピックアップ実習生 ～日本語能力検定試験 合格者特集～	4
JITCO作文コンクールで優秀賞 を受賞！	

7月16日から20日にかけて、「タイ国における介護と労働事情の調査」と題して、IPM及び介護施設等の参加者の方からなる調査団を結成しタイへ訪問しました。調査では、タイの送出機関・介護施設・病院・看護学校を訪問し、タイの介護事情を多角的な視点から調査いたしました。

タイの送出機関では、生徒達の日本語学習や介護実習の様子を見学しました。生徒たちが日本語の勉強や介護実習に一生懸命取り組む姿が印象的でした。また生徒達とは、日本文化や日本の介護について意見を交わしました。



左よりIPM、タイ王国介護学校協会理事長、送出機関NA BANGKOK社社長、タイ王国介護学校協会理事による三者間セレモニー

バンコク市内やアユタヤにあるタイの介護施設・病院・看護学校・AIU介護学校を訪問し、介護施設の職員や病院の看護師らから、またタイ王国介護学校協会からお話を伺う機会もあり、タイの介護状況について理解を深めました。

タイの介護学校の現場では、介護用品の選定や、実習の実施方法において模索している部分も多く、日本の介護技術を参考にしたいとの声を聞きました。

タイでは高齢化が進んでいますが、日本のような介護保険制度は無く、現状介護施設にはお金に余裕がある高齢者の方が入るもの、高齢者の面倒は家族がみる人が多数ということでした。

ただし、日本と同じくタイでも高齢化が進んでいる中で、将来的に日本と同じように家族だけで面倒を見るのが難しくなっていくことが予想されるため、介護士の育成に力を入れて取り組まれています。

IPMでは今後も継続して調査を行い、技能実習生を通じた日本の介護技術の移転や、福祉施設の方々と協力し、日本の介護の情報をタイにある現地の学校に共有していきます。



タイのAIU介護学校の学生たち

ベトナム大使館開催 意見交換会に参加しました

8月28日に、ベトナム大使館で開催された「ベトナム人技能実習生の受入れに関する意見交換会」に理事長 池田英人が参加いたしました。

ベトナム大使館ではヒエウ特命全権大使が新しく就任され、日越人材協力の促進を目的として開催されました。監理団体と大使館では、主に下記の課題が意見交換会で取り上げられました。

日本語教育の強化	失踪問題
入国前と入国後のミスマッチ	送り出し機関との連携
技能実習・特定技能の業種の拡大	日本でのスキル習得後の活用
不健全なコミュニティの取り締まりの強化および両国間での連携	ベトナムから日本への送り出しの促進

今回の意見交換会によって取り組むべき課題の共有がなされ、最終的には政府及び民間レベルで、より強固な関係を目指していくことが確認されました。

OTIT「令和4年度技能習制度に関する調査」

OTIT(外国人技能実習機構)で「令和4年度技能実習制度に関する調査」が発表されました。

帰国した技能実習生のうち、技能実習期間を通じて学んだことが「帰国後、役に立った」と回答した人は92.0%となっています。具体的な内容は、「修得した技能」が78.9%と最も多く、「職場の規律」が66.0%、「日本での生活経験」が65.4%と続きます。

実習期間中の困ったことについて、「困ったことはなかった」について、回答した人は81.5%となっています。「困ったことはあった」と回答した人の具体的な内容は、「家族と離れて

寂しかった」が60.4%で、最も多くなっています。

日本での実習が、実習生にとって実りあるものであると多く回答を得た結果になりました。一方で、実習生の中には、母国と離れ、寂しさを感じる実習生もあり、日ごろのコミュニケーションを通じて、実習生のメンタルに気づくことが重要だと考えられます。



詳細はこちら

<https://www.otit.go.jp/>

介護施設における取組①～社会福祉法人邑元会様～

日本人職員に負けない実習生がいると伺い、社会福祉法人邑元会様と、実習生のトウメーさん、オユカさん取材させていただきました。

【実習生へのインタビュー】

Qどんなやりがいがありますか

トウメーさん：利用者様と接しているとき、私のおじいちゃんとおばあちゃんに接しているような気持ちになります。

利用者様が嬉しいと私も嬉しく、利用者様が悲しいと私も悲しいです。そして、その気持ちを近くで分かち合えることがやりがいです。

オユカさん：施設でのコミュニケーションが心の支えです。先輩職員に分からないことはすぐに聞け、利用者様と会話をすることも、日本語の上達につながっています。一人で過ごす寂しいですが、施設にいて私の支えになっています。



左:オユカさん 右:トウメーさん

【社会福祉法人邑元会様の取組】

Q実習生を受入れて、現場の反応に変化ありましたか

実習生はとてもし生懸命で、日本人職員にもいい刺激になっています。実習生への指導を通して、「理解できる伝え方」を考えるきっかけにもなりました。

Q実習生への特別なプログラムやケアはありますか

月2回、日本語教室を開催しています。働きながら日本語を勉強することは難しいこともあると思うので、業務時間内で日本語を勉強する時間を設けています。

また、これから介護技術のテスト試験を定期的に行っています。テスト試験を通じて、実習生にフィードバックを行い、よりよい技術を身に付けてほしいと思います。

Q利用者様と実習生をつなぐ取組はありますか

施設でお祭りが開かれる時、実習生が民族衣装を着たり、実習生が母国を紹介する取り組みをしています。例えば、モンゴル料理について紹介したり、モンゴルの住居である「ゲル」を作成したりしました。

介護施設における取組②～社会福祉法人悠揚会

特別養護老人ホームはるばてお様～

実習生へのケアが深いと伺い、社会福祉法人悠揚会様の取組についてインタビューさせていただきました。

【社会福祉法人悠揚会様の取組】

Qどんな実習生が在籍していますか？

学習意欲が高く、介護技術を学びたいという気持ちがとても強いです。自分で調べたことを、積極的に「これやりたいです」と言ってくれます。

Q利用者様の反応はいかがですか

利用者様から、「がんばれ」と実習生を応援する声をよく聞きます。熱心な姿勢が利用者様に伝わっています。利用者様から実習生に日本語を教える場面も多いです。家庭的な雰囲気の中、利用者様とのコミュニケーションが実習生のモチベーションに繋がっています。

Q先輩職員と実習生はどんな関係ですか

強い信頼関係です。実習生は分からないことがあったら先輩職員に聞いています。また、先輩職員も実習生の傍にいて、すぐ実習生のフォローに入っています。

Q施設から実習生のサポートにどんなものがありますか

介護技術だけではなく、生活面からもサポートしています。

【介護技術のサポート】

毎週2時間、日本語の勉強会があります。また、実習生が、自立して介護を行えるような支援も行っています。

将来的には介護福祉士の資格を取得できる道も視野に入れて実習生のプログラムを立てています。

【生活のサポート】

実習生に畑を貸しています。実習生は野菜を育て、収穫できるとベトナム料理を振舞ってくれました。この前は採れたサツマイモで「チー」というベトナム料理を作ってくれました。

また、日本文化を体験し、実習生には見聞を広げてもらうことも大切にしています。地域の祭りに参加して、実習生には、お神輿を担いでもらいました。

他にも、レクリエーションの一環でスキー体験もしました。ベトナムでは雪が降らないので、初めての雪に喜んでくれました。



スキーを楽しむ介護実習生

ピックアップ実習生～日本語能力検定試験 合格者特集～

N1合格!

社会福祉法人水光会

てんほう
鄭芳さん



・日本語は何年間勉強されましたか？

5年間です。来日した時は、N4しか持っていませんでした。日本に来てから職場の部長から1年半日本語を個別に教えてもらいました。職員と話するとき、間違ったら職員が訂正してくれていました。また、問題集で勉強したりして単語を覚えました。

・日本語の勉強で楽しいと思うことは何ですか？

日本語の文章を読めるようになったし、他人とコミュニケーションが取れるようになったことです。自分の気持ちを他人にはっきり伝えることが楽しいです。

・N1の資格を活かしてやりたいことはありますか

介護知識をしっかり身につけたいと思っています。また日本の看護の免許証を取りたいと思います。

N3合格 株式会社武蔵野福岡工場 グエン ティ ホン リーさん

N3合格 株式会社武蔵野北九州工場 ド ティ シンさん



N3合格できるなんて、とても嬉しいです。最初は不合格と思ったけど、合格できるのが大変嬉しくて、自分の今までの努力に、やっと価値があります。今度N2挑戦したいと思います。



合格できたのはとても嬉しいです。これから、もっと勉強して、来年の7月N2を受けたいと思います。頑張ります。

JITCO作文コンクールで優秀賞を受賞!

西予市野村介護老人保健施設つくし苑の実習生、リナ エンビレグさんが、JITCO作文コンクールにて、優秀賞を受賞され、10/6に開催されたJITCO交流大会にて、日本語作文コンクールの授賞式に参加されました。



リナ エンビレグさん

【受賞されたコメント】

驚きと喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。この賞をいただいたのは、自分ひとりでの力ではなく、日本語を教えていただいた指導員、先生、応援してくれる日本の方々のおかげです。これからも介護技術や日本語の勉強に励み、みなさんと楽しい思い出を作るため、積極的に生活を楽しんでいきたいです。

【日本語の勉強について】

日々のコミュニケーションを通じて勉強しています。また、分からない日本語は先輩方に聞いたり、家に帰って調べたりしています。最近は、映画を見るとき、日本語の字幕で映画を見えています。先輩方を見て「ああいう人になりたい」という気持ちが、日本語をもっと上手になりたいというモチベーションになっています。

● 次回は2024年2月1日発行予定です